

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立長等小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度は国語科、算数科、理科で調査が行われました。全国平均値と比較して、国語科で4.2ポイント、算数科で8.0ポイント、理科で5.9ポイント高い正答率となりました。3教科の、どの領域においても平均を上回る正答率となりました。特に短答式の問題形式では、国語科で9.8ポイント、算数科で8.5ポイント、理科で9.6ポイント高い正答率となり、知識が定着していることがうかがえました。一方、記述式の問題形式では、国語科と理科で全国平均を下回る結果となり、課題が見られました。

《強み・弱み》

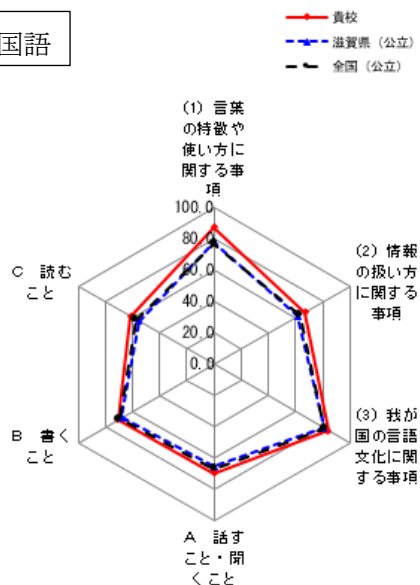
全校で、単元を貫く「魅力ある問い」を設定する授業を目指していることにより、子どもたちが意欲的に学習に取り組めていることが強みです。そのことは、質問紙調査の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した子どもが全国平均より多いことから伺えます、一方、授業で自分の考えを伝えることには苦手意識がみられ、本校の弱みであると言えます。

◇学習指導要領の内容の平均正答率の状況◇

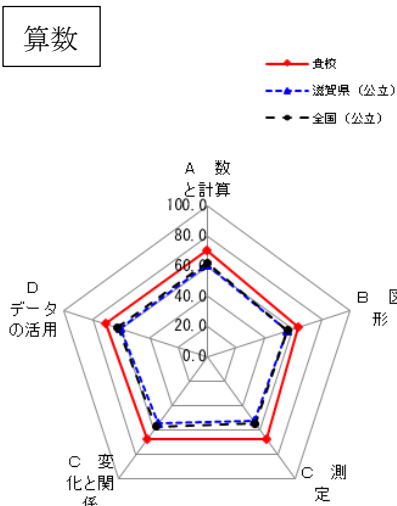
※本校の傾向を見るためのものであり、他校と比較できるものではありません。

(文部科学省からのデータをそのまま掲載しているため、長等小の部分は貴校と表示されています。)

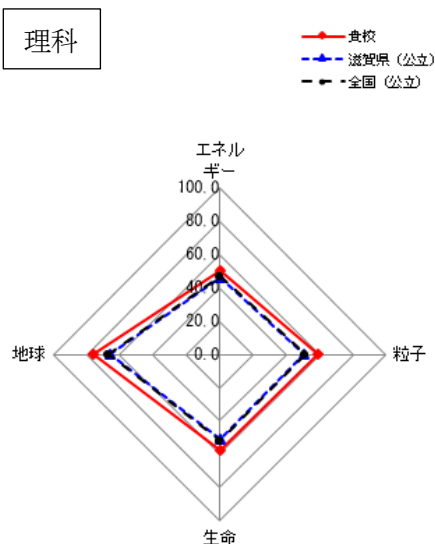
国語



算数



理科



【指導の充実に向けて】

授業では、単元の始めから終わりまで興味を持って取り組めるような「魅力ある問い」を設定します。その問いの解決に向けた問題解決的な学習を進める中で、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、「伝えたい！」という気持ちが湧き出てくるような授業を目指します。また、学習の「ふり返し」を充実させることで、子どもたちが自分自身の考えを整理し、表現できる力の育成を目指します。

学級会や縦割り活動などの特別活動を推進することで、子どもが互いの良さを認め合い、学校全体に支持的風土が広がることを目指します。